

新型コロナウイルスに関する新聞報道 の時系列変化の日中米比較

童 樺¹ ・ 森 川 美 幸² ・ 榎 本 美 香²

概 要

本研究では、日中米三国の新型コロナウイルスに関する新聞報道が時系列的な変化を明らかにする。分析1では、諸国いずれも報道数はコロナの蔓延状況と密接な関係があることを示す。分析2では、諸国と各時期の切り上げられつつあるトピックを算出し、各時期で取り上げられていくトピックを自国内、国際、経済三つの観点から分析する。分析3では諸国各時期で報道内容の感情の差を明らかにする。これらの分析を通じ、報道の中心となるトピックの国別の違いや、その変化の過程を明らかにする。

1 はじめに

2019年末、中国武漢市から報告された原因不明肺炎は、新たなコロナウイルス（以下コロナ）が原因であることが判明した。2021年1月30日、WHOは「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」を、3月11日には「パンデミック」の宣言をした[1]。各国がコロナの流行に影響を受ける中、社会の不確実性は増加し、国民の情報欲求は高まる[2]。諸国の報道機関は、コロナに関することを大きく取り上げるようになる。本研究では、各国の報道の関心の中心とその時系列的变化を明らかにする。

2 先行研究

酒（2021）は、コロナ報道中に、中国への差別的報道、たとえば人種的差別、情報格差、経済格差、教育格差に関する報道が含まれていたとする[3]。

また、星野（2022）は日本国内の新聞社間でコロナに関する新聞社説を構成するトピックの時系列変化や新聞社ごとのトピックの偏りを分析し、新聞は多様な側面に言及していることを明らかにした[4]。ソーシャルメディアとして、四方田（2020）[5]はTwitterで日本国内の1例目の感染者が確認された9週間でコロナに関する投稿を関連語や共起ネツトワークを分析した。SNS投稿内容から、コロナの感染拡大は人々のウイルス感染への不安に加え、報道内容や社会情勢の不安定さによる不安や疲労感、ストレスを生じさせていた実態を示唆している。

ただし、これらの研究はコロナに関する日本国内の報道だけを分析しており、日本以外の諸国でどのような報道がなされたのかは分からない。

¹ 東京工科大学大学院バイオ情報メディア研究科

² 東京工科大学メディア学部

3 方法

本研究は各国を代表するとは考えられる新聞紙を対象とする。次に、これは、日本、中国、米国を対象とする。これらは、この三つの国は、世界に与える影響が大きいと考えられる。新聞紙の選択には対象国から『NEW YORK TIMES』、『読売新聞』、『人民日報』を選択した。データベースに基づいて、2020年1月1日から2022年6月30日まで、コロナ関連の記事を収集する。日本語では「新型コロナウイルス」をキーワードとしてデータベースの検索を行う。中国は「新冠肺炎」、米国は`coronavirus`というキーワードで検索する。

次に、日本の新聞紙の特性を鑑みて、中立性を保っている『読売新聞』を用いる。中国は『人民日報』、米国は『NEW YORK TIMES』が全国紙であるためこれらを用いる。取得した記事のテキストをExcelでデータベース化する。次に、自然言語処理を用い、それぞれの新聞紙のトピック解析を行う。

4 分析 1

2020年1月1日から2022年6月30日まで、各データベースでキーワード検索を行った記事数を抽出する



図 3 日本の報道数



図 2 中国の報道数

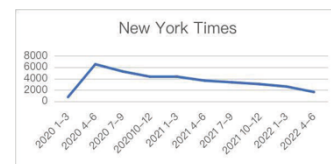


図 1 米国の報道数

各国いずれも2020年の報道量は感染の蔓延に伴い増加している。日本は分析した全期間を通じて、この傾向にある。一方、中国と米国は、その後感染者数の増加やロックダウンが生じて、報道が減少する。このことは、中国や米国においては、時間の経過とともにコロナに対する関心が薄れていったことを伺わせる。

5 分析 2

抽出した関連記事を形態素解析する。日本語専用のMECAB、中国語専用のJIEBA、英語専用のNLTKを用いてそれぞれ形態素解析を行う。

これらのツールを用い形態素解析し、各時期の単語出現頻度を求める。単語の出現頻度数が多くても、あまり意味が無い単語(たとえば、接続助詞など)は、重み付けを行い除外する。重み付けは「tfidf」という計算式を用いる。この計算式は主に文書検索やレコメンデーションに使われている(一色政彦2021) [9]。単語ランクの並び順は頻度と重み付け両方とも前10位で表示される。



図 4 読売新聞トピック



図 5 人民日報トピック

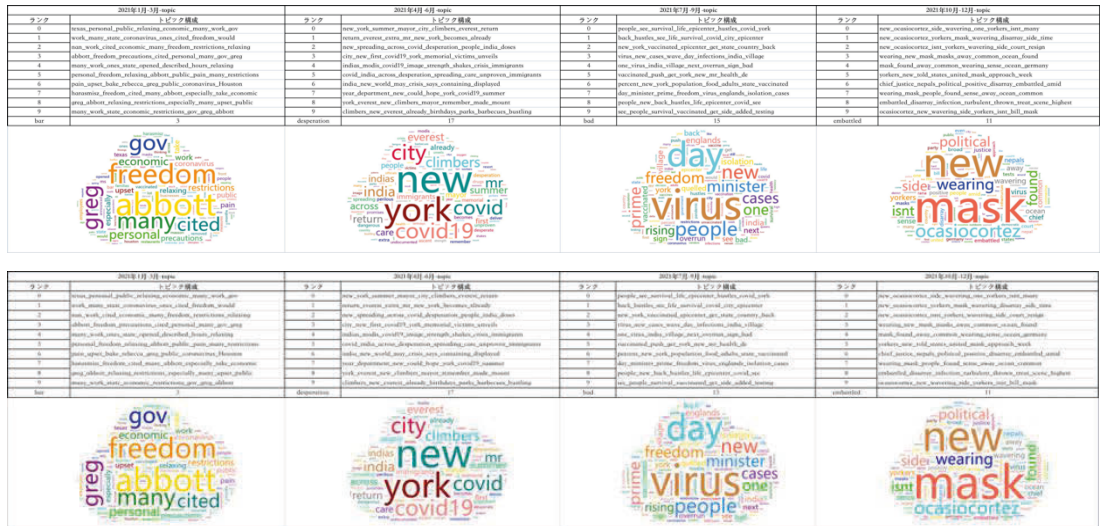


図 6 NYTトピック

日中米いずれも2020年初めの段階では、中国に関するトピックが取り上げられている。2021年になるとワクチンに関するトピックが盛り上がる。

日本の新聞報道の特徴は、初めの段階で中国の感染状況に対するトピックが多く、少し経つと、自国内の国民生活や社会保障などに関するトピックが増える。一方で、国際社会に関する言及は少ない。

中国の新聞報道の特徴は、WHOや他の国に関する国際連携のトピックが多い。時間が経過すると、感染状況より経済面に関する言及が増える。一方で、自

国内の国民生活に関するトピックは見られない。
米国の新聞報道は初期段階で中国とその政府機関に対する関心が多く、自国内の感染状況より他国に注目している。後期では、国民生活や国際旅行に関することに関心が高くなっていく。一方で、経済面に関する言及は見られない。

6 結論

本研究を通じて、日中米の新型コロナウイルスに
関する報道では、様々なメディアを通して、各国の
状況や共通点がある。情勢が明らかになった。
また、各国の感染状況や政治的な変化が、
経済・国際関係に与える影響が、
わかっていく。

参考文献

- [1] World Health Organization,
<https://www.who.int/csr/don/05january2020pneumoniaofunknowncausechina/en/>
- [2] 江逸. (2021). 基于语料库的中美主流媒体关于新冠疫情报道的对比研究——以《纽约时报》和《中国日报》为例. 东莞理工学院学报 (02), 122130.
- [3] 酒井信 (2021) 「COVID19と社会的な分断に関する報道分析とその方法論の研究 (特集「分断される社会」とメディア」 Periodical Title マス・コミュニケーション研究 = Journal of mass communication studies / 日本マス・コミュニケーション学会編 (99):2021 p.1527
- [4] 星野雄介. (2022). 自然言語処理技術を用いた新型コロナウイルスに関する新聞社説の予備的分析: 新聞社ごとの違いと研究の展望. 武蔵野大学経営研究所紀要 = Musashino University Management Journal, (5), 113148.
- [5] 四方田健二 (2020). 新型コロナウイルス感染拡大に伴う不安やストレスの実態, 体育学研究, 2020, 65 巻, p. 757774
- [6] 総務省 | 令和3年版情報通信白書 | メディアに対する信頼
<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r03/html/nd125220.html>
- [7] HUANG Yonghui (2022) 中国語感情語辞書と中国語感情表現分析システム. 情報処理学会全国大会講演論文集巻: 84th 号: 2 ページ: 2.792.80
- [8] 福田悟志, 難波英嗣, and 庄司裕子. “コロナ禍におけるワクチンに対する人々の感情変化とその要因の分析.” 研究報告情報基礎とアクセス技術 (IFAT) 2022.2 (2022): 16.